

レスピーギの歌曲にみられる自然描写と心理描写の音楽表現  
Respighi's music expression on the song texts  
describing nature and psychology

音楽文化研究科 音楽表現専攻 07-1015 堀 真理子

本研究では、レスピーギ (Ottorino Respighi 1879~1936) が作曲した歌曲 76 曲のうち、題名に自然の事物が扱われている 8 曲を対象とし、彼が視覚的な要素を歌曲の中にもどのように取り入れたのかを分析することによって、詩と音楽の係わりを明らかにした。

第 1 章では、詩に書かれている自然描写と心理描写を抽出し、それらが音楽でどのように表現されているのかを譜面から読み取り、詩と音楽の関係を分析した。第 2 章では対象曲全 8 曲それぞれの自然描写と心理描写の関係をまとめた。

その結果、ピアノの書法の観点から、レスピーギの作曲の手法をおおよそ 2 つの傾向を持つグループに分けることができた。まず第 1 のグループは、曲名に付けられた自然の現象がそのまま音として描かれているものであり、このグループでは曲の冒頭からピアノパートが自然の現象を髣髴とさせる固有の音型を繰り返し、聴き手にその自然の現象を常に連想させていた。第 2 のグループは、曲の冒頭からピアノパートにおいてそれぞれの曲に特有の音型を連続して使うものの、それらは直接的に自然の現象を模写するのではなく、詩人の背後にある情景や雰囲気を設定する機能がみられた。

このことから、レスピーギの歌曲では、まずピアノパートにおいて固有の音型を連続させて、ある現象や情景あるいは状況を聴き手に印象づけ、その上で歌唱パートでは、自然を見つめる詩人の心に芽生える感情を表現し発展させてく方法が用いられていることが判明した。このように、歌唱パートに心理的な表現が加わることによって、ピアノパートはそれまでの状況設定の機能にとどまらず、自らも心理的な高まりを表すように展開されていた。この相互の関係がレスピーギ独特の、視覚的かつ内面の表出も伴った音楽を生み出していることが検証された。